

令和元年度花巻市大迫地域協議会（第3回）会議録

1 会議の日時及び場所

- (1) 日 時 令和2年3月16日（月）午後4時～5時28分
 (2) 場 所 大迫総合支所 2階 第3会議室

2 出席委員（出席13名、欠席2名）

区分	団体及び役職名	氏名	住所	出欠
公共的 団体 から 推薦 された 者	花巻農業協同組合 女性部大迫支部長	菊 月 美智子	亀ヶ森	○
	花巻市森林組合 大迫事業センター所長	高 橋 純 一	外川目	○
	花巻商工会議所 大迫支部会長	山 影 義 一	内川目	○
	花巻市社会福祉協議会 大迫支部長	佐 藤 格	亀ヶ森	○
	花巻市大迫地域区長会 会長	佐々木 昭 男	外川目	○
	大迫地区コミュニティ振興会 会長	菊 池 利 和	大 迫	○
	内川目コミュニティ会議 会長	佐々木 一 夫	内川目	○
	外川目地区コミュニティ会議 会長	浅 沼 裕 治	外川目	○
(2) 学識経験を有する者		高 橋 正 克	亀ヶ森	○
		瀬 川 行 夫	大 迫	○
		佐々木 和 宏	大 迫	○
		畠 山 昌 子	大 迫	欠席
		川 村 悦 子	亀ヶ森	○
		瀬 川 和 広	大 迫	○
(3) 公募による者		高 橋 千 明	大 迫	欠席
		応 募 な し	—	—

花巻市 所属	役職名	氏名	出欠
教育委員会	教育長	佐 藤 勝	○
教育部	部長	岩 間 裕 子	○
教育企画課	課長	小 原 賢 史	○
教育企画課	主査	佐々木 晶 子	○
大迫総合支所	支所長	清 水 正 浩	○
地域振興課	地域振興課長	阿 部 晋	○
市民サービス課	市民サービス課長	佐 藤 充	○
地域支援室	地域支援監	黒 沼 寿 夫	○
地域振興課	課長補佐（地域づくり担当）	伊 藤 葉 子	○
地域振興課	地域づくり係長	山 影 博 能	○

・傍聴者 2名

3 議 題（説明事項）

- (1) 大迫地域の小学校の統合について
- (2) その他

4 議事の概要

- (1) 開 会 (地域振興課長)
- (2) あいさつ (花巻市大迫地域協議会会長)
- (3) 議 題（説明事項） 議長（佐藤格会長）が進行
 - ①大迫地域の小学校の統合について
(説明：小原賢史教育企画課長、佐々木晶子主査)
 - ②その他
 - ・大迫町婦人消防協力隊連絡協議会の解散について

主な質疑の内容は、次のとおり。

① 大迫地域の小学校の統合について

(佐藤格会長)

教育委員会事務局からの説明の主旨は、資料2の下段にある内川目小学校と亀ヶ森小学校を大迫小学校に統合するという内容でしたが、説明に対する質問や、統合に関する委員の皆様のご意見がございましたら発言をお願いします。なお、本日は前回の第2回協議会と同様に諮問、答申の形式ではなく、委員それぞれのご意見を伺う形式で協議を進めます。

それでは委員の皆様からご意見、ご質問はございませんでしょうか。

(佐藤格会長)

それでは、意見等を検討いただいておりますが、佐々木一夫委員から追加資料として配布がありました、内川目コミュニティ会議が作成した広報誌の「内川目コミュニティ会議通信」について、佐々木一夫委員からご説明願います。

(佐々木一夫委員)

2月18日に行われました内川目地区教育懇談会において、教育委員会から説明があった本件について、合意をした旨が書かれており、内川目地区の全世帯に配布したものでございます。

もう少し内容を言えば、当日、会場では「PTAも納得しているのであれば統合やむなし」と苦渋の合意をした旨が書かれており、今後様々な問題の解消について話し合いがもたれると思うが、内川目地域の皆さんには、このコミュニティ通信により出来る限りお知らせしていくとしているものであります。

(佐藤格会長)

各地区で開催された教育懇談会の状況については、資料2で確認できると思いますが統合については各地区ともに、小学校の統合については前向きに実施してもらいたいとの結論に達したとの内容になっております。そこで委員の皆様からさらに確認をしたいものがございましたらご意見をお願いしたいと思います。

(佐藤格会長)

私から一点お願いがございます。資料2にありますとおり、大迫地域の全小学校が大迫小学校と統合するという事、統合時期は令和3年4月1日とすること、校舎は現大迫小学校とすること、この件について委員の皆さんにはご確認いただければよろしいかと思っております。

併せて、お伺いしますが統合後の学校名について事務局ではどのように考えておりま

すでしょうか。

(佐藤勝教育長)

現在は仮称の大迫小学校ということで進めております。統合についてお認めいただければ、これから1年間、非常に限られた期間ではありますが、3小学校において、PTAや教育委員会等が加わった統合に向けた推進組織を立ち上げ、その中で協議をしていくということになります。原則としては仮称大迫小学校として協議を始めていきたいということでもあります。

(佐々木一夫委員)

統廃合については本来準備期間が2年程度必要だが、1年で進めるとのことではありますが、教員の統合加配のことについて伺います。統合される学校にも加配があるのでしょうか。また、加配があるとすれば、この1年のみなののでしょうか、統合後も加配は継続するのでしょうか。

(佐藤勝教育長)

統合加配については、できれば関係する全部の学校に置いて欲しいということで、強力に要望していきたくて考えております。間もなく新年度の教員人事について、ある程度固まるかと思いますが、統合の方針が決まりましたら、県に要望していきたくて考えております。最終的には講師になるかそれ以外になるかということもございしますが、できるだけ教諭を増やす方向で進めていきたくて考えております。その他に亀ヶ森小学校の例を出しますと、来年度の配置が3人であり、おそらく一番厳しいのが亀ヶ森小学校になりそうなのですが、特に養護教諭、事務職がおらず、それをどのようにカバーしていくか、いわゆる兼任の仕方、事務職についても共同実施という手法がありますが、その拠点校をどこにするのかについても、できるだけ早く詰めていかなければならないと考えております。統合加配の期間については、統合をするまでの間と、統合後1年という期間で要望をしていきたくて考えております。

(菊池利和会長)

先ほど小原教育企画課長から説明がありましたが、大迫地区においては3月10日に30名程出席いただき、教育懇談会が開催されましたが、それ以前に開催された亀ヶ森地区、内川目地区の懇談会において、苦渋の選択により統合やむなしとの結論であった旨の説明がございまして、そのようなことであれば大迫地区において統合に反対するものではなく、一緒に学んでいきたいと思いますというのを確認し、短い準備期間でございしますが、統合は大迫地域の発展にも資するのではないかとということで、統合を良とし、教育委員会には早期の推進をお願いしたという懇談会がございました。

(高橋正克委員)

亀ヶ森地区コミュニティ会議の高橋です。亀ヶ森地区で会合を持ったときの地区民の意見について、参考までにご紹介させていただきます。苦渋の決断とのございですが亀ヶ森地区においてはまさにそのとおりでございまして、亀ヶ森小学校150年の歴史を閉じるのは辛いという意見もございました。その他にも今後統合を進めるにあたりご留意いただきたいことがございます。

一つは、使用する校舎をどこにするのかということです。亀ヶ森小学校の校舎は一番新しい校舎でありまして、非常に使いやすく、亀ヶ森小学校の校舎を使用してもらえれば、諸手を挙げて統合に賛成するとの意見もございました。それから、川を遡って、大迫地区に行くというのは抵抗がある。通勤や買い物にしても川を下った方がいいとの意見もありました。統合に反対するものではありませんでしたが、懇談会の会話の合間に
出た発言でありました。

それから、亀ヶ森地区コミュニティ会議を運営している中で、私が感じたことについての意見ですが、子供たちからいただいていた活気がなくなるということがあります。子供たちの姿を見て我々も元気をもらっておりますが、それが無くなるということです。

もう一つは、子供たちが地域の住民と接することで、いろいろなことを学べるということがございますが、その機会が無くなるのはマイナスの面ではないかということです。

また、教育振興運動が親と子供の話し合いの場になっておりますし、あいさつ運動を通じて、子供と地区民が交流する場になっており、そのような運動を継続しているのは非常に良い活動であったと思っております。それから、学校が行う農作業の体験学習に地区民が参加しており、子供たちからそこでの体験についての話が出たりすると地域との繋がりが強くなりました。

それと、通学方法についてですが、バス通学は地域住民にも外気にも触れずに学校に着いてしまうという意味で、私はトンネル通学であると言っておりますが、これも非常に寂しいことだと思っております。子供たちにとっても通学途中にあいさつをしたり、話しかけられたり、時にはいたずらをして、地域住民に注意されたりすることも、子供の成長の一助になっていると思っておりますので、バス通学でなければとても通えませんが、バスに乗っている時間を短くしてあげたいというのが私の思うところです。

亀ヶ森地区コミュニティ会議の代表として感じている意見を述べさせていただきます。コミュニティの運営に対し学校からはご協力をいただいております。例えば地区民運動会です。小学校の運動会も地区民の運動会と共催しないと間が持たず、体力的にも疲れてしまうので、単独では開催できない状態です。共催することで非常に盛り上がり、統合してもこれまでのような運動会が開催できるよう配慮いただければありがたいと思います。また、地区の文化祭には子供たちの作品をお借りして開催しておりましたので、これまでと同様に継続できればと思います。それから、敬老会や世代間交流事業も地区民とのふれあいの場になっておりました。開催方法は検討しなければならぬと思いますので、統合までの間だけでなく、毎年、地区民と学校との協議の場を作っていいただけないかと思っております。

(浅沼裕治委員)

外川目地区コミュニティ会議の浅沼です。外川目小学校統合の際は、佐藤格会長が教育部長であり、私も当時は関わっておりました。統合後に外川目小学校の校舎が振興センターになりました。今年度から私はコミュニティ会議の会長となり、旧外川目小学校校舎である振興センターの管理をしておりますが、まだ当時の学校関係の資料が残っておりまして、貴重な歴史的な資料でありますことから、今後どのように管理していったらよいか悩んでおります。

また、今後、内川目、亀ヶ森小学校の統合後、それらの資料はどのような取り扱いになりますでしょうか。

(佐藤勝教育長)

私も旧外川目小学校に伺っており、先日も会議室に伺ったところ、そこにこれまでの学校の行事の記録ビデオなどがたくさんあり、私も驚いております。非常に大事な資料であります。今後そのような資料をどのように取り扱うか、例えば、統合後の小学校のライブラリーとして一括管理されるのが理想と考えておりますが、収納スペースや管理体制の問題、ビデオを再生するための機器がなくなっておりますので、DVD化など保管方法の検討も必要かと思っております。お預かりする体制についても検討が必要だと考えております。今後振興センターに伺い、どのようなものが保管されているか確認をさせていただければと思います。

(佐藤格会長)

私からもお願いしたいことがございます。私は社会福祉協議会の支部長という立場で、委員に選出されているわけですが、一人暮らしの高齢が増加している背景には、若い世代が小学校に入るといふより学年が進み教育環境が変化し、町外に出ていき、高齢者夫婦が残っている世帯が多く見受けられます。本日の資料の中に児童数の推移が示されたものがありますが、平成18年の合併時点から平成36年の実数でとらえられる数字を見ますと、花巻市全体で27パーセントの減少に対し、大迫地域では56パーセントの減少となっており、特に大きな減少率となっております。先に統合した東和地域では37パーセントの減となっており、少しは改善されているように感じます。石鳥谷地域全体では50パーセントに近い減少となっております。教育環境の改善についてはご説明いただきましたが、その背景にある子育て環境の向上についてのご支援いただければ、この過疎化はますます進んでいくのではないかと危惧されます。そういう意味からも教育環境の改善については資料も整っており説明もいただきましたが、これから小学校に子供を通わせる親御さん方への十分な配慮をお願いしたいと思っております。私も東和小学校の統合の際には、放課後活動などに関しても十分な話し合いの機会があったと記憶しております。児童が学校にいる時間についての議論ももちろんですが、学校を離れた時間への対応について配慮をお願いします。

(佐藤勝教育長)

ご意見ということでございましたが、来年度から新しい子供、子育てに関する事業計画として、イーハトーブ花巻子育て応援プランが始まります。本日この計画についての会議がございまして、お認めいただいたところでございます。その中で、1回目の計画として、今年度までの5年間、107件の事業でスタートしてまいりましたが、その都度、これらの事業内容を毎年評価し、改善し進めてまいりました。従いまして来年度からのスタートとして、そのあたりが課題である思います。特に先ほどお話があった子育て環境については、大迫地域の小学校が統合した場合には、学童クラブの問題が大きな課題となってくると思います。現在の早池峰学童クラブは、小学校に隣接した施設で運営していただいておりますが、小学校の統合により入所希望者が増えることが予想されます。その経営基盤や運営方法について、どういった形が一番いいのか、どのような支援の仕方がいいのか、保護者の方々とも話し合いを強化していきたいと思っております。ただ、これまでの経過と課題もございまして、慎重に進めてまいりたいと思っております。それ以外にも地域の抱える課題はたくさんあると思っておりますが、協議を重ね進めてまいりたいと思っております。

(佐藤格会長)

他にご意見がなければ、まとめに入ってよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(佐藤格会長)

それでは、一つ目は内川目小学校と亀ヶ森小学校を大迫小学校に統合すること、そして統合の時期は、令和3年4月1日とすること、そして三つ目は、統合後の校舎は大迫小学校を使用すること、これらの教育委員会からの提案について、満場一致で承認し、進めていただくこととしてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(佐藤格会長)

それではこの案件につきましては、教育委員会から提案がありました原案については承認されたということで推進いただきたいと思います。

その他、教育長より何かございませんでしょうか

(佐藤勝教育長)

本日、委員の皆様には大変お忙しいところ、このようにマスクを着用した上で、緊急に出席をいただきありがとうございます。

また、ご説明申し上げました大迫地域の小学校統合について、ご承認いただきありがとうございます。さらに、それに伴ってのご意見をいただき大変参考になりました。

委員の皆様には本日の地域協議会に至るまで、地域での懇談の場、協議の場の中で、たくさんの検討材料やご意見をいただきましたし、様々な場面で、多くの方々にご検討いただくようご尽力いただきましたことに、重ねて御礼を申し上げます。

現在、学校は休校が続いており、今後の教育活動の再開については不透明なところですが、学力保証も含め、子供たちには、できるだけ早く新学期への期待を持たせたいというのが私の考え方でありまして、できるだけ早く学校と連携しながら、本来の学校生活を取り戻せるよう努力していきたいと考えております。いずれ三つの小学校統合に向けて子供たちや親御さんが不安を感じることもないよう、教職員の協力も仰ぎながら、しっかりと準備を進めてまいりたいと思います。先ほど高橋正克委員からたくさんの意見をいただきましたが、教育振興、それから安全安心な通学方法も含め、様々な課題解決にしっかりと取り組んでまいります。地域の皆様にも今後ご意見をいただいたり、サポートをお願いしたりしたいと考えております。

本日ご承認いただきまして、今後の作業としては、近日中に市議会議員の皆様にご説明する機会を設けたいと思っておりますし、その後、保護者の方、そして何より子供たち、先生方、地域の皆様にともしっかりとお知らせをしてまいりたいと思っております。

申し上げるまでもなく、三つの学校とも、とても古い伝統と、いままで地域、そして保護者の方々にご支援をいただきながら、特色ある優れた教育実践を進めてきた学校であります。ぜひ苦渋の決断のもとではありますが、統合後の新しい学校において、大迫にあるたくさんの教育財産を活かしながら、子供たちが健やかにたくましく、確かな学力を身に着けられますよう、そして、早くあらたな校風を樹立して馴染んでいただく、自分の学校として自慢できる学校を創れるよう私たちとしても取り組んでまいります。

本日は大変お忙しい中、慎重審議していただき、ご承認いただきましたことについて、改めて御礼申し上げます。本日は大変ありがとうございました。

② その他

・大迫町婦人消防協力隊連絡協議会の解散について

(佐藤格会長)

その他について川村委員から説明をいただきます。

(川村悦子委員)

私は大迫町婦人消防協力隊連絡協議会の会長をしており、その今後の活動について、ご報告したい事項がございます。昨年2月に内川目婦人消防協力隊から大迫町婦人消防協力隊連絡協議会を脱退したいとの申し出があり、この1年間、外川目、亀ヶ森の各協力隊の隊員のみなさん、消防団の各分団の方々に参加いただき協議を重ねてまいりました。その結果、大迫町婦人消防協力隊連絡協議会は解散することになりました。これは岩手県婦人消防連絡協議会からも、その下部組織の花巻支部婦人消防連絡協議会からも抜けることを意味しております。これにより活動に際して、これらの組織を通じて加入しておりました損害保険にも加入できなくなりますし、岩手県消防協会花巻地区支部から助成金をいただき活動費の一部としてきましたが、これも無くなってしまいます。

そして今後、大迫町内で火災、災害等があった場合には、それぞれの隊が所管する地

区内のみで活動をしていくことになりました。自主防災組織やコミュニティ会議等の活動にも係わる部分がありますので、この場をお借りしてお知らせします。

(清水正浩大迫総合支所長)

ただ今の件につきましては、婦人消防協力隊は各分団の傘下として協力隊があるというところでございまして、これまで消防団の後衛として協力をしていただいております。連絡協議会長の川村委員からもお話がありましたが、大迫町内の各地区の協力隊が所属していた連絡協議会をなくして、おのこの各分団の傘下で、それぞれの地区内において活動することにしたというところでございます。基本的には各地区内の活動内容は変わりません。

ただし、外川目地区については外川目地区婦人消防協力隊そのものも解散するとのことでしたので、今後は、火災等の災害が発生した場合にそれに代わる、協力しあえる体制が整えられるのであれば、問題はないのではないかと考えております。市民のみなさんの不安はないものと思っております。大迫町婦人消防協力隊連絡協議会が無くなったことについては、非常に寂しく残念に感じております。

(佐藤格会長)

確認しますが、大迫地区と外川目地区は婦人消防協力隊が無いことになり、内川目地区と亀ヶ森地区は、分団の傘下として残るといことですか。

(清水正浩大迫総合支所長)

現状としてはそのようになります。

(佐藤格会長)

この件について、委員の皆様からご質問等はございませんか。

(「なし」の声あり)

(佐藤格会長)

質問等がないようでございますが、その他について他にございませんか。

(「なし」の声あり)

(佐藤格会長)

それでは以上で本日の協議を終わります。

(4) その他

なし

(5) 閉 会 (地域振興課長)